ある道路工夫さん

上益城郡御船町の土田利三次さんがこのたび昭和三十二年度表彰の優良路線職員として選ばれた。土田さんはすでに建設大臣からも表彰をうけており、周囲の人々の信望をあつめている。そこでこゝに土田さんのプロフイルを紹介することにした。

土田さんは今年五十二才で、奥さんと息子さん二人の四人暮しである。土田さんが、県の路線職員として採用されたのは、昭和二十五年であるから、現在までの受持路線、木山浜町線を、営々と八年間も守りつゞけてきていることになる。十六キロにわたるこの路線は、いわゆる三角道路（悪道路のこと）と呼ばれていたが、土田さんの愛情とたゆまぬ努力が実を結び、今では見違えるほどの模範道路になつた。

思いもよらぬ工夫と根気 ■

この結晶は、並大抵の努力では生れそうにないことで、目立たない土田さんの工夫と根気が大きな支えとなつている。つまり、路線作業で一番のなやみは、思うように充分な材料がない場合だが、そんな時、土田さんは山から自分で石をハンマーで砕いたものを運んでこれにあてている。もう一つの問題は、道路の生命である側溝であるが、山津波の常襲地帯であるこの道路はたびたび路面を洗ざらしにされている。土田さんはだから道路の排水作用をする側溝には、特に気を配つて、いつも深くするように力を入れている。昭和二十八年の六・二六災害の時には、木山浜町線では二十六ケ所も被害を蒙り、天災とはいえ土田さんを非常に悲しませた。全く自分の努力不足だとして、いよいよ発奮された。それ以来、雨の日も風の日も土田さんは道路の巡視を欠かさないようにしているといわれる。

奥さんも手伝つて ■

土田さんにとつては、道路は恰も恋人のようなものらしい。そして生活の愉しみとは、立派な路をつくることだといわれる。奥さんも御主人の手が足りない時は一緒に手伝われるとのこと。矢部土木事務所長の坂口さんの評によれば、なにしろ影日向のない作業ぶりには驚かされるらしい。まさに我が家の庭を手入れするように、道路に対する愛着は徹底しているということ。

細かい気づかいも ■

道路を守るためには、いろんな点で気配りが必要で、例えば、道路に無責任にほゝり出された木片やガラスのかけらなど気をつけて取はらわねば危いし、又民地が道路に喰込むような場合本人に忠告したり、道路標識を正しく管理したりあれやこれや気苦労も多いらしい。路面の凹凸をなおす路肩整理作業で特にやり憎いのは冬だそうで、寒中は土が凍つて鶴嘴がたゝなくなる。それでも、仕事はおろそかにできないと根気よく続けられる。

土田さんは、仕事には夏も冬もないといわれる。雨にも負けず、風にも負けず只一筋の路線を守るために土田さんのすべての情熱は注がれているようである。

★ ★ ★

死毒中ある だまで

農薬撒布に警告

特定毒物の

今年も又有機燐製剤等を使用する時期となつたが、農薬による事故は減少したとは云え、県内では今なお多くの生命が失われ、すでに二十三名の自殺者も出ている（六月二十八日調）

そこで昨年迄の事故の例などから特に注意していたゞきたい点を挙げて見ましよう。

撒布する前の注意

① 個人撒布は絶対に行わないこと。昨年もたつた一人で撒布していたため、中毒して手当も出来ずに死亡した例がある。

② 服装は帽子、マスク、長袖の上衣、防水された長ズボン、直接撒布液を扱う人はゴム手袋を必ず着用する。

③ 撒布に使う器具は前もつて十分点検しておく。

④ 防除する団体は必ずきめられた届出をする。

⑤ 防除する日時、区域が公示され、或はその他の方法で近くの人達にしらせる。赤旗を立てる。

撒布する時の注意

① 薬液調整の際は風上から、水面近く静かに原液を注ぐ。

② ゴム手袋を必ず着用し、桶の縁やビンのまわり、手袋等に着いた原液はその都度必ず洗つておくこと。

③ 薬液のかかつた着物又は汗や俄雨等に濡れた着物は直ちに着替へる。濡れたまゝ作業を行つたため集団中毒を起した例もある。

④ 手足に傷があつたり、健康に異常のある人は中毒し易いので作業に従事しない事。

⑤ 撒布中は風向等に注意し風上に身体をおいて作業をすること。

⑥ 一人で長時間撒布しないこと。

⑦ 撒布中にタバコをすつたり、飲食してはいけない。

撒布したあとの注意

① 使用残液や空になつた薬の容器は必ず員数をは握し、指導員の指示に従つて完全に処置する。空ビンや使用残液を持ち出して自殺した例も相当見受けられるので特に注意する事。

② 撒布に使用した器具は濃い石鹸水でよく洗う。

③ 手足はもちろん身体全部を石鹸でよく洗う。

④ 衣類は下着まで全部とりかえる。

⑤ 作業後飲酒、夜ふかしはいけない。

⑥ 気分が少しでも悪くなつたらすぐ医者にみてもらう。

購入と保管の注意

① 農薬は登録を受けた毒物劇物営業者から、指定を受けた農家組合だけしか購入出来ない。この場合指定証と組合長の印を必ず持参すること。

② 保管は組合長が全責任をもつて厳重に鍵のかゝるはつきりした保管箱に一括保管すること。個人保管は厳禁されている。

③ 組合長は保管している員数を常には握しておくこと

④ 人畜についているシラミやダニ、家屋の害虫駆除には絶対使つてはならない。又、赤旗は一週間たつたら忘れずにとり除きましよう。

なお撒布、保管その他の取扱いについては、改良普及員、関係技術員の方の指導は勿論ですが、今年も各地区で県下一三、〇〇〇余人の実地指導員認定講習を受けた指導員がおられるので、必ずこの指導員の指導に従つて下さい。

〃人畜無害〃も安心できぬ

静岡県で起つた話。毒劇物に指定されている「エンドリン」の説明書に「人畜無害」と書いてあつたので安心してトマト畑に使用した青年が中毒で死亡した。

また熊本県では、毒劇物でない農薬「マラソン」によつても自殺した事件があつた。これは使用法を間違つた為らしいが、説明書に〃無害〃と書いてあつても甘く考えないで、必ず指導員の指導を受けてから使用するようにしよう。

稲早期栽培の ■収穫 ■乾燥

取 出穂期から三〇日頃 刈 が適期

早期栽培では高温時に登熟するため、結実日数は品種によつて少々異るが、出穂期（四〇～五〇％出穂を見た頃のこと。農家は一般に「出穂揃」と混同している）から三〇～三五日で成熟し、その頃が刈取適期である。収穫期になつても茎葉は勿論、穂首まで緑色で、籾のみが黄色である。遅れ穂や下位小枝梗の基部の籾が褪色しないからと云つて（実際はそれで一般に遅刈になつている）刈取がおくれると胴割米や茶米が多くなり、光沢も悪化して品質が悪くなる。

乾燥 かけ干し二～三日が好成績、地干しは不可

稲束、籾の乾燥に (1)かけ干 (2)地干し (3)機械乾燥（通風乾燥機）等の方法がある。

かけ干しに普通かけ干し、段かけ干し、屋根型かけ干し、片屋根かけ干し等があるが

昨年の実績からみると、いずれのかけ干しでも日数が長くなり、かけ干し中に降雨にあつたものは穂発芽を起し、品質が低下している。

簡単な方法は、普通かけ干しを間隔六尺内外で並列に作つて、東西両側の列の穂先をムシロ等で直射日光のあたらないようにしてかけ干し、日数は二～三日程度で脱穀したものが良かつた。

かけ干用長木のない地帯では、四粍鉄線を張つてかけてもよい。

地干しは早期栽培の乾燥法としては感心しない。

機械乾燥の設備のある農家では、直扱（チキコぎ）又はかけ干しの後、脱穀して機械乾燥を行う。この方法は経費も安くしてしかも安全である。

脱穀後のムシロ干しは、日中高温時をさけて朝夕に行う事が大切である。

籾摺り 早朝低温時が良い

紙面の都合で要点のみを上げるが、籾の乾燥が終つたら十分放冷したのちに籾摺を行うことが大切である。それには早朝低温時の作業が好ましい。